

## 杉並第一小学校学校運営協議会臨時会 議事要旨

日 時：令和5年12月8日（金） 17時～19時50分

場 所：杉並第一小学校図書室

出席者：村上徹也会長、伴野博美職務代理、松尾純一委員、狩野刀根男委員、手塚佳代子委員、佐久間ゆかり委員、河野依子委員、竹越不可止委員、岡田円治委員  
山口祐美子校長、吉岡光弘副校長、杉田英昭副校長

杉並区：岸本区長、岡本教育委員会事務局次長（学校整備担当部長）、青木教育委員会事務局学校整備課長、最上政策経営部施設マネジメント担当課長、郡司都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、中谷都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、安藤政策経営部企画課施設マネジメント担当係長、安川教育委員会事務局学校整備課教育施設計画推進担当係長

### 〈会次第〉

#### 1 区長あいさつ

- 多忙な中、臨時会にお集まりいただき感謝する。これまでの阿佐ヶ谷北東地区まちづくりに関する経緯や原状、区の考えを説明していく中で、区民の皆様から様々な不明点やご意見をいただいている。こうした声に対する説明責任として、区としてわかりやすい資料の作成や情報公開に取り組んでいる。
- 本日の臨時会もその一環として、学校運営協議会からの意見をお聞きする機会をいただいた。議会等でも杉一小に関しては関心が高い事柄であり、私自身も杉一小の歴史を学んでいるところである。今日のような会は町会や商店会に対しても行っているほか、多忙な学校保護者の方がご覧になれるようオープンハウスなども計画している。本日の目的は皆さまが思っていることをしっかりとお聞きすることなので、忌憚ないご意見を聞かせていただきたい。

#### 2 出席者の紹介（区・CS委員）

#### 3 区からの説明

令和5年8月31日に実施した「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会」及び12月に実施するオープンハウスでの資料を基に、阿佐ヶ谷北東地区まちづくりについて、小学校に関する事項を中心に説明した。

#### 4 阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換

【○：CS委員 ●：区】

○この計画は子どもの教育環境を十分考慮して考えているとは思えず、移転計画は反対。学校が学区域の東端に寄ってしまう。天沼・荻窪寄りの地域に住んでいる子ども達は重いう

ソドセルを持って毎日通わなければならないことになる。数百mの移転でも子ども達には大きな負担になる。人口減少社会の中で喫緊の課題は、未来に向けてどう活力ある社会を築いていくか。阿佐ヶ谷駅北口は子ども達の元気な声があふれる場所です。街の賑わいを願う気持ちは誰しもが持っている。未来の日本を背負う子どもたちを中心にした賑わいの街づくりを考えるべきではないだろうか。その柱として杉一小は現在の場所で改築を考えていってほしい。前区長がやったことをつじつま合わせの説明は要らない。向こう 100 年のまちづくりを岸本区長の新鮮な目で判断してほしい。

○平成 29 年の改築・複合化検討懇談会の委員だったが、A案からB案に変わった時、計画の変更について紙を一枚配られたただだった。詳しい説明は受けていない。その時の不信感がずっと心に残っており、私の時間はそこで止まったままだ。いくら計画の説明を受けても響かない。説明責任を果たしてほしい。区長が代わって考えを聞きたい。にぎわいについて商業ベースの話に感じる。校庭が広くなれば教育環境が良くなるのか。土地を変えれば教育が維持されるのか、安直に考えないでほしい。現場を見てほしい。

○騒音の課題や病院跡地の汚染、緊急避難場所について気になる。阿佐ヶ谷駅の北口は住宅地区、南口は商業地区である。

○移転ありきの意図的な説明に憤慨している。病院を造るために、給食室減増築の際は夏休み校庭が使えなかった。子ども達のことをどう考えているのか。税金で病院用の道路を区が作ったことに対してどう考えているのか区長の考えを聞きたい。病院は人が死ぬところで、学校を移転するなどあり得ない。都市開発の案はもっとじっくり検討するものではないか。

○移転の話の前に、区のお金で民間病院の移転に使う道路を造ったことについて区長としてはどう考えるか。

●病院の公共性を考慮すると、ある程度区が協力する部分も必要である。

●北側の現在工事車両が通行している通路は、河北病院のためだけに作ったものではなく、杉一小学校が移転改築時の工事でも使用するものである。

●通路の使用料は、今は病院の建て替えのために使っているため、病院が支払っている。

○移転予定先は、地盤が低地にある。湿気が多い、病院跡地である等、校庭に不適である。

●今に至る状況について、説明責任が果たされていないと感じる。学校関係者が現状に納得していない状況でここまで来ていることに自分も違和感がある。

○PTA は約二百数十世帯のうち 95%~96%が加入している。保護者の中には、賛成、反対の両方があるため、PTA として賛否については言えない。子ども達からは「現在地に学校が欲しい」「移転はいやだ」という声は聞かぬが、移転がいいという声は聞かない。保護者からは「移転は決まっています仕方がない」という声も多いが、積極的な肯定の声は聞いていない。保護者の不安として、通学路の距離の問題や工事が始まった際の安全面での声がある。子ども達の安全と教職員の労働環境の確保はどのような計画になっても配慮してほしい。

○阿佐谷を担っていく子ども達を育てるためにどういう学校にしていくのかを考えることが改築懇談会の本分だった。それが紙ペラ一枚で変わってしまった。駅近くに杉一がある意義を考えてほしい。また、東日本大震災のときは緊急避難場所として重宝した。杉一小

は単なる学校の概念を超えて存在しようとして改築に対して意見を述べてきた。そのことが資料に全く書いていない。それに費やした時間は何だったのか。騒音について移転先で防音対策をするというが、荻窪小学校ではうまくいかなかった。公民連携・にぎわい・グリーンというがそれは杉一が中心となってやるからこそのものである。できることなら現地改築に戻してほしい。

○これまでの特色ある杉一小の教育は駅前の今の環境だから出来ている。昔の改築懇談会の4階屋上校庭案は素晴らしかったが、紙ペラ一枚で変わってしまったことも納得がいかない。移転することが教育環境の向上となると書いてあるが、全くそんなことはない。改築検討懇談会で考えたものが土地の交換一つで変わってしまうのか。

杉一はどの学校よりも関係者と学校が一体になって頑張っている自負がある。学区を変えればいいと思わないでほしい。時間がかかっても関係者を説得して現地改築に戻してもらいたい。

○杉一は素晴らしい学校だが、他の学校もそれぞれに頑張っており、それぞれに素晴らしいのではないかと客観的に見ると、運営協議会でこの話題が出るといつも「そもそも」の部分から話が始まってしまい非建設的に思える。これまでの進め方に問題があったと感じる。ここまで意見や認識が違ふのであれば、ガス抜きでない話し合いの場が必要と感じる。まちづくりにも関わることであり学校以外のさまざまな立場の方々の考えや意見も聞き、相互理解を高めたうえで最終確定への道のりを示すなど、前向きにまちづくりを進めるためのやり方を再検討すべきではないか。

○追加資料をみると、A案で決まったことが、平成28年8月に病院と地権者の間で病院移転の話があり、それで今のB案に転換され、懇談会が無くなったことがわかる。病院移転の話がある後に、杉一の移転が後追いで決まったのではないかと。学校移転が私間のやりとりで巻き込まれたのではないかと。このことは広く公表するべきではないか。

また、私の邪推だが、そもそも、等価交換でないはずの一連の土地交換は学校が巻き込まれなければあり得なかったのではないかと。そのような裏で成り立っている不平等な交換は区が巻き込まれてないとはあり得ない。学校の土地を巻き込むことで不平等な地下交換を等価に見せかけたのではないかと。こういった前区長達の悪企みがあったに違いないと思われることを、区長はよくよく気を付けていただきたい。

○民地と公地の交換は等しくあるべき、移転先と今の土地が等価とは思えない。

○追加資料にある「他敷地」とは初めて見たが、何か。

●区画整理で発生する保留地を示している。

○計画が反故になったとして、地権者や病院が杉並区を訴えるとは思えない。過去のつじつま合わせはやめてほしい。

○子ども達が大きくなった時にこの計画のことを説明できないのではないかと。

○訴えられても、区として善後策を考えるべき。杉一小を残す方向で考えてほしい。

○大人の事情で考えるのではなく、未来を担う子どもを考えた計画にしてほしい。

○今日CS委員が示し合わせて反対を表明しているわけではなく、個人がそう思って発言している。地域の中であって、病院の建て替えに文句を言ったことは一度もない。教育を守るためにここにいたいと考えている。今日もそれぞれ忙しい中、我々は出席している。

その辺り区長にご理解いただきたい。

○こういった時間をいただき感謝している。私たち教職員は与えられた環境で最高の教育を子ども達と創ることが、ミッションであり、日頃より協力いただいている保護者の方や地域の方への恩返しと考えている。色々な意見があり、長い期間を経て絡まってしまった糸がほどけるかどうか懸念している。今日集まったCS委員の方は個人の損得抜きで杉一小を思って発言してくれている。

どういった未来になるにしても、この土地に杉一小がある限り、施設は寿命を超えているが、子どものために教職員一丸となって取り組んでいく。そのための支援・修繕等は教育委員会・区長部局ともお願いしたい。

○自分の立場で出来ることを取り組んでいく。

○杉一の子どものために、これだけの大人が真剣に話し合っていて感謝している。明日からまた目の前の教育が始まる。子ども達の笑顔のためにこれからも取り組んでいく。

●CS委員の方に確認したいが、これまで杉一小の移転改築について教育委員会などと話す場は何年もなかったのか。

○移転についてテーマになったことは一度もない。病院の移転工事が始まるにあたって区の方に来ていただき説明をうけたことはある。

○決まったことの説明はあったが意見交換はなかった。

●仮に現地改築となった場合は移転改築より新校舎でのスタートが遅れる想定だが、その点どう考えるか。

○過去の懇談会の内容を活かせばスケジュールを短縮できると考える。ここまで話がこじれるのが異常事態。もしA案に戻すのであれば、区としても全力で短縮に努めるべき。

○この計画は今後100年の阿佐谷地域のまちづくりに関わっている。拙速に進めるべきではない。

●計画を変えるにあたって関係者の同意を得ることが大きな乗り越える山。3年半というのは方針を180度変えるにあたって必要な手続きをミニマムに見積もった期間。

○出来る限りのことをやっていただきたい。

●計画変更の経緯について、病院移転の話があった際に区側から教育環境の向上や防災機能の強化等を考えた時に、3者で新たな手法がとれるのではないかと考えたところである。しかし、経緯に関して十分に発信できていなかったことはある。

A案からB案の変更期間が短かった理由は、A案の設計等を並行してすすめていたことや、病院老朽が進んでいたことから、検討期間を区切ったからある。しかし、その背景が十分に伝わっていないことは区としても反省するべき点と考えている。

○昔のA案に決まった時に、複合化する施設の内容まで具体的に検討した。その時の資料があれば現地改築に戻ったとしても期間を短縮できるのではないか。

○資料間につじつまが合わない部分が散見される。何か説明できない部分があるからではないか。

●本日の追加資料はオープンハウスの資料としてコンパクトにまとめたものとなっている。A案からB案に変更した際の経過としては、10月19日・22日の資料に詳しく記載し

ている。

○様々資料を作成してもらうのはいいが、移転ありきで資料を作成しないでほしい。

○新しい区長のもとで、区職員には一丸となって取り組んでほしい。

## 5 区長あいさつ

- 今日の会が貴重で不可欠であったと思う。地域には色々意見があるのは当然だが、その中で学校当事者をおいて新しい学校はできないと感じた。
- マイタウン阿佐谷協議会とも今日のような意見交換会を開いたが、その会では計画を進めるよう求める意見が大半だった。地域を良くしていきたいという思いは共通で、杉一小学校跡地に何を作るかという議論を始めたいという話もあった。
- 今の状況になってしまっていることは、学校の移転の経緯などの説明責任が足りなかったことに起因する部分大きいと感じている。私たちは今、その部分の責任を果たすために一生懸命できることをしている。
- 時間的な期限が迫っていることも事実である。議会の中ではこの計画は承認を得ており、区の計画として進めているものである。
- 我々は区民全体の生活を止めないため、来年度の予算を通さなければならない。
- 過去に十分な説明や話し合いをする時間はあったのではないかと思う部分はあるが、今の状態からベストな道を探らなければならない。そのために、皆様や周囲の方からのご理解、相談させていただきたい。